

## 骨折リエゾンサービスの有効性

2023年4月1日から2026年3月31日までに脆弱性骨折のために整形外科で入院治療を受けた患者さま

### 研究協力をお願い

日本医科大学多摩永山病院整形外科では「骨折リエゾンサービスの有効性」という研究を行います。この研究は、2023年4月1日から2026年3月31日までに整形外科にて、脆弱性骨折のために入院しチーム診療（骨折リエゾンサービス）を受けられた患者さまの治療効果を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この揭示によるお知らせをもってご同意を頂いたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の間い合わせ先へご連絡ください。

#### (1) 研究の概要について

研究課題名：骨折リエゾンサービスの有効性  
研究予定期間：倫理委員会承認日から2027年3月31日  
調査対象期間：2023年4月1日から2026年3月31日  
研究責任者：日本医科大学多摩永山病院 整形外科 北川泰之

#### (2) 研究の意義、目的について

骨粗鬆症による脆弱性骨折の二次骨折が問題となっています。整形外科、リハビリテーション室、薬剤部、看護部等によるチーム診療（骨折リエゾンサービス）による充実した診療が二次骨折の予防に繋がることを明らかにすることを目的とします。

#### (3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

2023年4月1日から2026年3月31日までに日本医科大学多摩永山病院整形外科にて、脆弱性骨折に対する骨折リエゾンサービス受けられた患者さまの骨粗鬆症の治療状況、移動歩行能力、サルコペニア、包括的生活機能、注意機能、認知機能の変化、再転倒回数、二次骨折の有無を解析し、脆弱性骨折に対する骨折リエゾンサービスの効果についての検討を行います。この研究は、患者さまの以下の情報を用いて行われます。

試料：なし

情報：年齢、性別、骨折部位、骨折治療内容と経過、通常の診療で行われる画像検査データと血液検査データ、骨密度、介護認定の有無、服薬状況、転倒歴、移動歩行能力、サルコペニア、包括的生活機能、注意機能、認知機能の評価等

#### (4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用されません。また、研究発表時にも個人情報は使用されません。その他、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

#### (5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表します。

#### (6) 問い合わせ等の連絡先

担当者：整形外科 北川泰之  
日本医科大学多摩永山病院 倫理委員会事務局  
〒206-8512 東京都多摩市永山1丁目7-1  
電話番号：042-371-2111（代表） 内線：2302  
メールアドレス：nagayama-chiken\_center@nms.ac.jp